

令和５年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)

事業成果報告書

令和６年３月１０日

クオールホールディングス株式会社

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)

事業成果報告書

目次

1. 事業の実施期間
2. 事業趣旨
3. 事業の実施体制
 - (1) 本事業の実施体制
 - (2) 本事業の実施スキーム
4. 事業の内容
 - (1) 事業のテーマ
 - (2) 実行委員会
 - (3) 事業の実施内容
5. 事業の成果
 - (1) 評価指標および目標
 - (2) 結果と考察
6. 今後の事業展開予定
 - (1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題
 - (2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画

参考資料等（別紙添付予定）

「事業参加者アンケート集計及び事業考察」

（令和5年3月10日今治市イベント完了後、3月18日までにアンケート集計の上提出）

1. 事業の実施期間

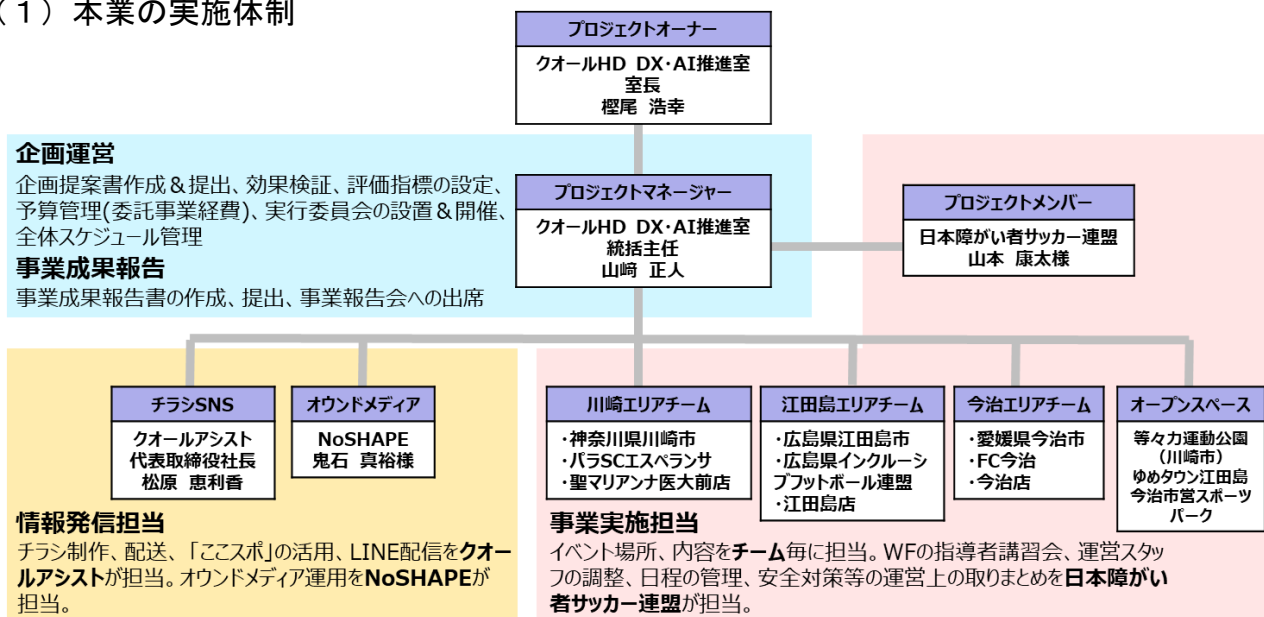
令和4年8月25日（事業の再委託契約日）より令和5年3月10日（事業完了日）まで

2. 事業趣旨

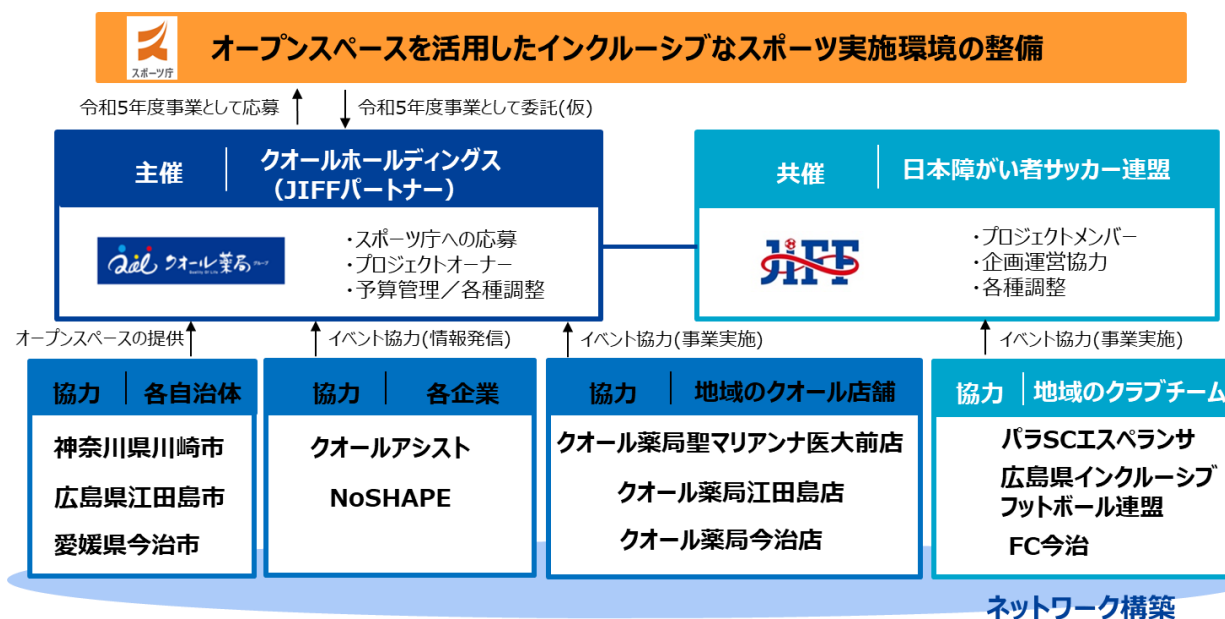
- ①クオール薬局と日本障がい者サッカー連盟による障害の有無に関わらず参加できるイベントを通してスポーツ実施率向上に繋げる。
- ②障がい者と健常者の相互理解の機会創出や健康向上の機会を作る。
- ③本事業を自治体と連携しながらロールモデルを作ること、スポーツ環境整備の均一化、地域の街づくり・街のにぎわい作りに貢献する。

3. 事業の実施体制

（1）本業の実施体制



（2）実施スキーム



4. 事業の内容

(1) 事業のテーマ

オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備

(2) 実行委員会

	主催	クオールホールディングス (JIFFパートナー)	共催	日本障がい者サッカー連盟
		 ・スポーツ庁への応募 ・プロジェクトオーナー ・予算管理／各種調整		 ・プロジェクトメンバー ・企画運営協力 ・各種調整
定期		毎月2回クオールHD、日本障がい者サッカー連盟で委託事業全体の打ち合わせ 毎月2回クオール薬局の薬剤師、管理栄養士構成のチーム、日本障がい者サッカー連盟でイベント実施の打ち合わせ		
臨時		毎月クオールHDと連携企業で打ち合わせ 毎月クオールHDと日本障がい者サッカー連盟、自治体の三者で打ち合わせ 毎月クオールHDは連携薬局、日本障がい者サッカー連盟は地域チームと打ち合わせ		

(3) 事業の実施内容

対象期間 - 令和4年10月～令和5年3月 対象エリア - 各都市のオープンスペース（公園・治道・商業施設の広場等） 対象者 - 障害の有無に関わらず老若男女の全ての方 内容 - クオール：薬剤師や管理栄養士による話（運動実施による健康増進など） - JIFF：前半は障がい者サッカー体験、後半はウォーキングフットボール(WF) 担当 - クオール、日本障がい者サッカー連盟、関係自治体、WF指導者、ボランティア アンケートによるモニター数値 - 参加者の年代、性別、障害の有無、日々のスポーツ実施の有無、イベントをきっかけにしたスポーツ実施機会、障害の理解、次回参加の有無 その他 - 参加者に必要な道具等は日本障がい者サッカー連盟の持ち出し	     
---	---

JIFFインクルーシブフットボールフェスタより

イベント名称	実施日時・場所	協力団体・参加者数
歩いてゴール！ だれでもウォーキングフットボール かわさき	日時：2023年10月7日（土） 13時～15時 場所：等々力緑地内催し物広場	事前予約参加者：41名 当日受付参加者：32名 協力団体：パラSCエスペランサ、川崎フロンターレ、日本ミニフットゴルフ協会
歩いてゴール！ だれでもウォーキングフットボール 江田島	日時：2024年1月14日（日） 13時～15時30分 場所：ゆめタウン江田島 2Fこどもの遊び場	事前予約参加者：24名 当日受付参加者：11名 協力団体：広島インクルーシブフットボール連盟、サンフレッチェ広島（森崎浩司アンバサダー参加）
歩いてゴール！ だれでもウォーキングフットボール いまばり	日時：2024年3月10日（日） 9時30分～12時 場所：今治市営スポーツパーク	事前予約参加：60名 当日受付参加：12名 協力団体：今治・夢スポーツ（FC今治）

5. 事業の成果

(1) 評価指標および目標

- (ア) 予約参加者と当日参加者の比率：当日参加率：40%
- (イ) 障がい者と健常者の参加者比率：障がい者参加率：40%
- (ウ) 年令分布及び性差構成比率：全ての年令領域に広く分布
- (エ) 成人参加率：50%

(2) 結果と考察

① 事業結果

	参加者 合計	オープンスペース有効性指標			インクルーシブ指標									
		予約参加	当日参加	当日 参加率	健常者	障がい者	障がい者 参加率	年令範囲				性差分布		
								最小	最高	成人人数 (18歳～65歳)	成人 参加率	男性	女性	その他
神奈川県 川崎市 (R04.10.07)	73	41	32	44%	49	24	33%	未就学児	60歳代	33	45%	53	18	2
広島県 江田島市 (R05.01.14)	35	24	11	31%	11	24	69%	10歳未満	70歳代	20	57%	19	16	0
愛媛県 今治市 (R05.03.10)	72	61	11	15%	61	11	15%	10歳未満	70歳代	47	65%	42	30	0
合計	180	126	54	30%	121	59	33%	未就学児	70歳代	100	56%	114	64	2

② 考察

(ア) 予約参加者と当日参加者の比率：当日参加率：40%

- 川崎市の等々力緑地催し広場は平素より子供達の遊具等があり、市民の憩いの場・散歩コース等になっていることより、主催者より声掛けすることにより多くの方々に当日の参加をいただいた。イベント当日はBリーグの開幕戦で隣接の等々力アリーナで開催されていたことから、そちらからの参加も見込んでいたが、興味対象の競技が異なると全く効果がない事も判明した。
- 江田島市のゆめタウンは江田島市唯一のショッピングモールであり、サンフレッチェ広島の森崎アンバサダー参加の効果もあって、当日参加者を確保出来ることとなった。本来はガシャポン等が設置されている場所であるが、ネットやラバーマットの施設等の安全対策を施すことで安価にオープンスペースのスポーツ実施環境が構築出来る事を証明出来た良い事例と感じる。
- 今治市の開催は、今治市スポーツパーク（F C今治のホーム：里山スタジアム横）での実施であり、F C今治のホームゲーム開催日であったことより親子連れの参加が目立った。イベント実施後のアンケート回答において、全体の約2割の健常者の方が「障がい者スポーツに関心がある」とご回答いただいております、オープンスペースにおいて障がい者スポーツを知ってもらい良い機会になったと感じる。
- 本事業イベントを知る契機となったのが、各団体のホームページやSNS（今治市イベントでは約50%）であり、このような媒体の積極活用が重要である。

(イ) 障がい者と健常者の参加者比率：障がい者参加率：計画 40% 実績 33%

- 各自治体様、各地域の障がい者スポーツ団体より、養護学校を始めとする学校施設、障がい者施設などに積極的にお声掛けをいただいたことで、目標値の数値を確保出来た。障がい者スポーツ団体の人脈等の活用は特に有効であることが理解出来た。

(ウ) 年齢分布及び性差構成比率：全ての年齢領域に広く分布

- 各地域で広範囲の年齢及び性差の垣根を超越した参加分布となった。これはウォーキングフットボール及びミニフットゴルフの競技特性の効果である。今後、フットボールに限らず、各競技カテゴリーにおいても、インクルーシブな実施環境を実践・推進可能な競技の検討をお願いしたい。

(エ) 成人参加率：計画 50% 実績：56%

- お子さんと親御さんが一緒に参加出来るウォーキングフットボールであるからこそ、成人の方々にも積極的にご参加いただけたと感じる。参加者アンケート（別資料でご提示）においても継続的にスポーツに取り組みたいとの意見が多く、成人の運動実施の一つの契機となることが証明出来たと感じる。

6. 今後の事業展開予定

(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

① 事業継続に向けて

- 本事業においては今後の地域における自走を想定して、事前にウォーキングフットボールを運営する為の「コーディネーター講習会」を毎回実施した。養成されたコーディネーターの実践の場として各イベントを実施した。地域への定着の為には推進者の養成が必須であると感じる。
- マネタイズについて、今回はスポーツ庁の財政支援を基本に実施したが、1 イベント当りの費用感からすると、地元企業等が数社で負担すれば実施可能なものであり、今回を契機に賛同いただける地元企業の開拓は必須と考える。
- 今回は実現出来なかったが、地方小都市に散見されるシャッター商店街（障がい者トイレの問題があるが）等にて実施することで、賑わいを取り戻す一施策として、各地域の経済産業局とも連携して、本意業を継続して進めていきたい。

② 今後の課題

- 障がい者の方々にも参加いただく為の各種制約事項等（障がい者トイレ、フラットアクセス、手話通訳者の準備、会場来場の為の自動車の乗降スペースの確保等）に対する要配慮があることが、自治体様、障がい者団体様とご一緒することで理解出来た。各自治体が本イベントによろしく実施できる条件を示す（チェックリスト等の作成）と共に、実施場所の認定等も推進していければ良いと感じた。

(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画

① 次年度以降の事業継続

- 本事業において実績を作った3自治体につきましては、次年度以降も形を変えるなどして継続していければと考えており、イベントの関わった各地域の障がい者スポーツ団体（ウォーキングフットボールのコーディネーター講習受講団体）に継続実施の企画運営をお願いしたい。
- 江田島市のゆめタウンにおいては、次年度以降の実施も鑑み、ネット及びラバーマット等を購入し自施設にて保管いただいている。実現には至らなかったものの今治市におけるイオンモールでの開催も有益であると考えられ、来年度以降の検討事項としたい。
- 「障がい者スポーツに関心がある」とのアンケート回答数が相当数あることから考察すると、「障がい者スポーツ」を身近で見る場所、体験する場所・機会が少ないことがあげられる。本事業の主旨に則った取組を各地域で進める事で、障がい者スポーツへのより一層の理解が得られるものと思われる。

② 横展開の計画

- 本事業においては、大中小の三都市（人口規模＞川崎市：150万人、今治市：15万人、江田島市：2万人）にて、イベント実施の検証を行った。また、屋外（公園）、屋内（ショッピングモール）の二つの実績を作ることが出来た。これらを元に弊社の立地自治体等より横展開地域を選定しながら計画立案を実施していきたい。
- 川崎市のイベントには千葉市の方が来場されており、幕張地域の新駅地域の活性化を念頭に、今回、今治市の検討で参加検討いただいたイオン様等と一緒に新たな事業モデルを構築していきたい。